

西・中央アジアにおける亀裂構造と政治体制

第1章

総論：西・中央アジア諸国における亀裂構造と政治体制

間 寧

はじめに

これまで開発途上国の政治社会の分析の多くは、民族、宗教、地域などに依拠する社会的差異が潜在的には体制の不安定要因であると議論してきた。しかし、民族性、宗教性、地域性などの多様な区分軸が社会に存在しても、民主主義体制または権威主義体制が比較的安定的に維持されてきた国々が、たとえば西・中央アジア地域には存在する。なかでもトルコ、イエメン、シリア、カザフスタンでは過去10年間以上、既存の政治体制を揺るがすような紛争や暴動は起きていない。これらの国々において、上述の社会的差異は政治体制をどのように規定し、他方、政治体制はその社会的差異の潜在的な分裂効果をどのように減殺しようとしているのだろうか。

本書は亀裂（cleavage）という概念を用いて、西・中央アジア諸国、とくにトルコ、イエメン、シリア、カザフスタンの社会構造と政治的安定性の関係を考察することを目的としている。亀裂とは、以下で詳しく述べるように、(1)社会人口的属性と(2)価値観を共有し、(3)組織的表現形態を持つ社会集団間に発生する社会的区分軸と定義できる。亀裂という概念を政治体制との関係で用いることの最大の利点は、個々の国についてどの社会的差異が政治的重要性を持つかを相対的に論じられることである。本書では、具体的な亀裂の内容は分析対象国により異なるが、民主主義体制、権威主義体制のそれぞれ

に対して、以下のような共通の問いを掲げた。まず新興民主主義体制（ここでは第2次世界大戦以降に民主化した諸国とする⁽¹⁾）において、亀裂構造が政党制にどのように反映され、社会集団間の利害調整や対立回避の制度化につながるのかである。次に、亀裂議論でこれまでほとんど分析の対象とならなかった権威主義体制において、亀裂構造が体制によりどのように操作されるのかである。

両政治体制に共通した結論は、亀裂構造が政治体制に反映している場合（トルコ、シリア）と反映していない場合（イエメン、カザフスタン）があることである。もちろん、政治体制が民主主義的かそれとも権威主義的かにより、「反映」を主導する主体は異なる。しかし少なくとも上記の知見は、政治体制を安定的に維持するうえで、亀裂構造（より一般的には社会構造）を政治体制に反映させる方法とさせない方法の2つがあることを示した。本章ではまず第1節で、亀裂構造と政治体制にかかわる先行研究を、亀裂概念の定義と開発途上国についての分析を中心に概観する。次に第2節で、前節の結果に依拠する本書の分析枠組みを紹介するとともに、全体の構成を提示する。最後に第3節で本書の主な知見をまとめ、西・中央アジア諸国における政治的競争と支配の見取図を提示する。

第1節 開発途上国における亀裂構造と政治体制

先行研究概観⁽²⁾

本節では、開発途上国における亀裂構造と政治体制（とくに民主主義国では政党制）についての統合的文献レビュー⁽³⁾を行う。対象文献は、過去約30年間の英文の図書および学術雑誌論文の中で、(1)亀裂（cleavage）を題名または主題のひとつとしたもの、(2)亀裂と明示しなくても階級、民族、宗教・宗派、言語的な差異を総合的に分析したもの、から選んだ。以下では、まず亀裂の定義を扱った後、民主主義国⁽⁴⁾、非民主主義国の順に、先行研究におけ

る主要な知見をまとめ、最後に、暫定的な結論を提示する。

政治体制は亀裂のみにより規定されているわけではない。社会構造以外の制度的要因も政治体制に大きな影響を与える⁽⁵⁾。また、国家对社会関係において社会の力が弱いと(植民地体制や非民主主義体制)、政治体制が亀裂を意図的あるいは偶然に作り出すあるいは強調する場合もある。ただし既存研究の分析の視点に着目すると、亀裂が政治体制(とくに政党制)をどの程度規定しているかという分析方法が、その逆の関係より圧倒的に多く採られている。その大きな理由是非民主主義体制についての分析が少ないことである。

1. 体制下部構造の歴史的形成

亀裂の政治社会学的分析の先駆者はリップセット(Seymour M. Lipset)とロツカン(Stein Rokkan)(Lipset and Rokkan eds. [1967])である。彼らは亀裂(後に定義する)が西欧の政党制に与えた影響を歴史的かつ各国横断的に分析した。本書の分析枠組みにとって重要なのは、西欧で生じた亀裂が具体的に何かというよりは、その形成過程に関する3つの分析視点である。それは、(1)複数の亀裂が各国固有の歴史的条件により形成されること、(2)それぞれの亀裂の政治的重要性が歴史的に変化すること、(3)亀裂が政党制を(広い意味では政治体制を)規定することである。彼らはこの分析視点をを用いて、西欧で16世紀以降に形成された諸亀裂が、選挙権が19世紀以降拡大する過程で⁽⁶⁾政党制に反映されていったことを明らかにした。具体的には西欧において、(1)国民国家建設過程で「中心対周辺」亀裂および「国家対教会」亀裂という2つの文化的亀裂が⁽⁷⁾、産業革命過程で「都市対農村」亀裂および「資本対労働」亀裂という2つの機能的亀裂が、それぞれ形成されたこと、(2)選挙権が拡大するごとに新たな亀裂を代表する政党が生まれたこと、(3)1960年代の政党制は1920年代の亀裂構造を反映したまま凍結していること(「凍結仮説」)、(4)各国の差異は「資本対労働」以外の亀裂の相対的強さにより説明されること(1920年代以降は「資本対労働」が亀裂のなかでもっとも強いのはどの国でも

同じなので), などである⁽⁸⁾。

幾度も指摘されているように, リップセットとロッキンは亀裂を明示的に定義しなかった(Flora ed. [1999: 34])。また, その後他の研究者たちが亀裂を定義したが, これらの定義は必ずしも整合的ではない(Römmelq [1999])。定義のみならず, 名称でも, これまで「亀裂」, 「社会的亀裂」, 「政治的亀裂」という名称が用いられてきた。「社会的」, 「政治的」という形容が付く付かないか, あるいはどちらが付くかは概念定義に必ずしも関係していない。しかも, 同一文献の中で複数の表現が同義的に用いられている場合もある⁽⁹⁾。

亀裂の定義に対するさまざまな批判とともに研究が積み重ねられるにつれ, その定義は精緻化されるとともに多くの研究者に共有されるようになった。そして1990年代半ば以降, (1)社会人口的属性, (2)価値観, (3)組織的表現形態を亀裂の条件とする(最大条件定義)という共通認識がほぼできあがった。ここで(1)社会人口的属性とは, 社会構造や人口学上の客観的特質, (2)価値観とは集団帰属意識, イデオロギー, 信仰心などの主観的特質, (3)組織的表現形態とは, 客観的および主観的な特質((1)と(2))を共有する社会集団を組織化し, 政治的行為につなげる組織や制度を意味する。すなわち, 現在支配的なこの定義によれば, 亀裂とは社会的階層化・差別化の単なる結果ではない。社会構造上の差異はそれが組織化されて「閉鎖化」(固定化)されたときにのみ亀裂に転化するのである(Bartolini and Mair [1990: 216]) ⁽¹⁰⁾。

この最近の定義で特徴的なのは(3)を条件に含めた点である。これは, (1)と(2)を共有していてもそれが固定化, 組織化され集団行為を可能にする条件が生まれていなければ, 単に社会階層・意識の特質でしかなく, 亀裂となりえないという認識に基づいていると考えられる。1990年代の議論(Bartolini and Mair [1990], Knutsen and Scarborough [1995], Kitschelt et al. [1999], Moreno [1999]) では(3)の組織の例に労働組合, 教会, 政党, 任意団体などがあげられている。ここで政党を含めることは, 政党制との議論で必ずしも同語反復にならない。組織は亀裂を構成する要素のひとつでしかないからである。むしろ, 亀裂が政党制を規定することの部分的な証左となりうる。そもそも,

亀裂と政党制の関係の議論の中心は、個々の亀裂と個々の政党との結びつきではない。その関係の存在を前提としたうえで、主要な亀裂が何であり、それらが政党の合従連衡（alignments）をどのように規定しているかである⁽¹¹⁾。

2．新興民主主義国 亀裂の不鮮明な反映と包括政党優位

リップセットとロッカンの亀裂議論は新興民主主義国にも適用範囲が広がられた。その背景にあるのは民主主義の定着への関心である⁽¹²⁾。民主化の第3の波で確かに民主主義国の比率は上昇したものの、他方で不安定な民主主義の体制を持つ国の比率も高まったからである（Jagers and Gurr [1995]）。政党制の観点からは、明確な政策綱領と選挙公約に基づいた政党間競争の存在が民主主義の定着に貢献するとの考えがある。党首の個人的魅力や特定支持勢力への利権配分に依拠する政党間競争（および選挙）だと、民主主義の統治機能および正統性を低下させることになるからである（Kitschelt [1995: 449-451], Mainwaring [1999: 46]）。この分野での研究は2つに大別できる。ひとつはリップセットとロッカンの個別の仮説（凍結仮説や4つの亀裂の存在）が新興民主主義に当てはまらないことを主張するもの、もうひとつは彼らの個別仮説のそのままの適用をそもそも考えず、かわりに彼らの論理を利用しているものである。

まず個別仮説を批判したものでは、Geddes [2003: chap.4] が、Lipset and Rokkan eds. [1967] が分析の対象から（その選択基準を満たしていたにもかかわらず）はずしたラテンアメリカや東欧諸国について、凍結仮説が当てはまらないことを実証的に示した。またRandall [1999] は、亀裂の持つ役割が西欧のそれと異なるために、Lipset and Rokkan eds. [1967] による政党制と亀裂の関連づけが、第三世界の政党制を分析するうえで不適当であると論じた⁽¹³⁾。個別の亀裂についても、たとえば韓国において（Park [2002]）、民主的選挙の時に現われた亀裂は地域主義だった。政党は離散集合しても、政治指導者、政治家は強い地域的支持基盤に支えられていた⁽¹⁴⁾。ただし、Randall [1999] が

批判した点の多くは、彼女がLipset and Rokkan eds. [1967] の分析結果をそのまま第三世界の政党制の実態にあてはめようとしたことに起因している。第三世界政治の分析のために重要なのは、Lipset and Rokkan eds. [1967] の枠組みであり、結果ではない。具体的にどのような亀裂が存在するか、それがどのような機能を持つかはLipset and Rokkan eds. [1967] がまさに主張したようにその国の歴史的発展経緯に依存するために個別的議論になる。

より重要なのは、(1)亀裂が歴史的に形成される、(2)亀裂の重要性が時間とともに変化する、(3)亀裂が政党制を規定する、という命題である。実際、新興民主主義についての大半の研究はリップセットとロッカンの個別仮説でなく分析枠組みに注目した。そして(再)民主化後も亀裂構造を反映する政党制が形成されず、かわりに特定の亀裂に依拠しない包括政党⁽¹⁵⁾が支配的であることを明らかにした(Özbudun [1987])⁽¹⁶⁾。政党制における亀裂投影の不鮮明さと包括政党優位の理由は、地域的な違いもあるため一般化することは難しいが、既存研究からは以下の4つの理由が浮かび上がる。初めの2つは亀裂構造側の要因(亀裂の性質および数)に、残りの2つは政治制度側の要因(憲法体制と体制転換)に、より強く規定されている。

亀裂構造側の第1の要因は、労働者階級の不均質性により、機能的亀裂、とくに資本対労働亀裂が発生しにくいことである。ラテンアメリカでは、西欧とは異なり、農業の次に製造業ではなくサービス産業が発達し、大規模な工業労働者階級は生まれなかった。労働者層は事務職員や季節労働者をも含む多様な大衆から成り、これらの勢力を取り込むために包括政党が発達したため、亀裂構造自体がそもそも不鮮明だった(Dix [1989])。第2の要因は、はっきりとした亀裂が存在していても亀裂構造が細分化していることである。アフリカでは一般的に、民族に依拠する亀裂が多すぎるゆえに政党制では個々の亀裂は見えにくくなる。与党が強大な場合、他の政党や政治勢力を挙国一致の名のもとに吸収したし(Horowitz [1985])、個別的亀裂勢力を代表する少数政党が分立する場合、選挙ではこれらの政党が亀裂よりも数の論理で連合を形成するからである(Mozaffar, Scarritt, and Galaich [2003])。

政治制度側の第1の要因は、ラテンアメリカに多く見られる大統領制が政党制の制度化を阻んでいることである⁽¹⁷⁾。与党(大統領の政党)は必ずしも議会の過半数を握らず、しかも議会は小党分裂しがちである(Linz[1990], Mainwaring[1990])。このため、与党も野党も議会政治を通じて亀裂次元の経済利害や価値を政策に反映する機能が議院内閣制に比べて弱く、政治は大統領対反対勢力という二元的対立に陥りやすい(Kenney[2003], Dominguez and McCann[1995])。第2の要因は、過去の非民主主義体制の残存的影響である。アフリカやラテンアメリカに比べて東欧では、共産化以前にはっきりと集約された亀裂が存在した。都市対農村亀裂(ブルガリア, チェコスロバキア), 世俗対宗教亀裂(チェコスロバキア), 宗派的亀裂(チェコスロバキア, ポーランド), 伝統対西欧化(ハンガリー, ルーマニア), 民族的亀裂(チェコスロバキア, ポーランド), などである(Lawson[1999])。しかし第1次, 第2次世界大戦およびその後の共産化により, 既存の亀裂構造や政党制が破壊された⁽¹⁸⁾。民主化後は旧亀裂構造が復活せず, 新しい亀裂もはっきりとは現われてもいない(Lawson[1999], Kitschelt et al.[1999], Miller, Erb, Reisinger, and Hesli[2000])。

新興民主主義国において包括政党が支配的であることの政治的な原因として, 上述の既存研究で触れられていないのは新興民主主義国の民主化過程である。「第1の民主化の波」で生まれた先進民主主義国では, まず政党間競争がエリート政党間で行われ(寡頭制民主主義), その後, 既存政党のなかで対立・分裂が生じると新興(反対)勢力が選挙権の拡大を求め, 実現させてきた。その過程で, 新規有権者の支持は新興勢力に向かう一方, 旧主流勢力は既存支持基盤を固守した(Lipset and Rokkan[1967: 33-34])。このため, 「選挙市場」の拡大部分を中心的支持基盤とする政党と, 既存部分に依拠する政党の間の違いははっきりしていた。これに対し, 第2, 第3の民主化の波で生まれた開発途上国の民主主義では, すでに普通選挙権が存在するところに複数政党制が導入されたため, 旧支配政党はもとより, 新規参入政党も, 選挙市場の一部分に特化せず(またはできず)市場全体を対象とする選挙戦略を持つことになる。あるいは支持基盤に違いがあるとしても, それは旧体制支持対

旧体制反対という構図で、いずれにしても複数の亀裂を横断することになると考えられる⁽¹⁹⁾。

3. 民主化途上国・非民主主義国 亀裂の操作

民主化途上国と非民主主義国においては、国家社会関係において社会の力が(新興民主主義におけるよりもさらに)弱いために亀裂を扱う議論そのものが少ないが、政治体制による操作との関係で論じる研究が見られる。植民地期ナイジェリアのヨルバ人における宗教的亀裂(キリスト教・イスラーム教)の非政治化、および氏族アイデンティティ(祖先の出身地域を基礎)の政治化がある。イギリスはイスラーム教徒の教育を助成したりキリスト・イスラーム教徒の対立を仲介したりする一方、現地エリート登用では出身地域による峻別を行った(Laitin [1985, 1986])。亀裂の操作の結果、非民主主義体制におけるもっとも制度化された政治体制である一党制が生まれることもある。それはとくに、複数の亀裂が重複したりひとつの亀裂が他のすべての亀裂よりも重要になったりしたために二分化した社会(bifurcated society)において、一方の社会勢力の政治エリートが他方の社会勢力に対する支配を組織した結果生じた(Huntington [1970: 11])⁽²⁰⁾。他方、亀裂の発生が意図せざる結果の場合もある。ザンビアの今日の民族的亀裂の基礎となる言語区分は、植民地政府の統治の効率性を重視する政策の副産物だった(Posner [2003])。

本書が扱う西・中央アジア地域にも非民主主義国が多い。中東における亀裂を扱った研究は、少数派集団の個別研究(あるいはその編纂)としては存在しても(Schulze, Stokes and Campbell eds.[1996], Bengio and Ben-Dor eds.[1999], Binder [1999], Ma'oz and Sheffer eds. [2002])⁽²¹⁾、亀裂を相対的に論じる研究はほとんどない。あったとしても亀裂を紛争との関連で論じることがほとんどである(Fox and Margulies [2002])。ただし、少数派(McLaurin [1979])、エジプトのナセル体制を支えた農村エリート(Binder [1978])、内戦前のレバノンの亀裂(Lijphart [1977])など、亀裂構造と政治体制の関係を分析した優

れた研究も少ないながら存在する。Ben-Dor [1988] は多数派・少数派関係の観点から、中東においては制度を安定させるような多数派・少数派組み合わせパターン（社会集団の規模が大から小まで徐々に低下しているパターンと、小規模の社会集団が多数存在するパターン⁽²²⁾）が欠けていることを指摘した。またBarakat [1993] は、アラブ社会研究における共同体的亀裂の偏重を批判し、階級的亀裂の役割に注目した。そしてエジプトやチュニジアなどの均質的社会で階級的亀裂が共同体的亀裂より政治的に重要であるのはもとより、レバノンなどの非均質的社会でさえ、共同体的亀裂が階級的亀裂の性格をも持つことを指摘した（Barakat [1993: 20-21]）。亀裂に似た視点として階層化の研究（Van Nieuwenhuijze ed. [1977]）もあるが、実証例では各国の社会階層の状況を叙述しているだけで体制や社会関係との関わりはほとんど論じられていない⁽²³⁾。

西・中央アジアはこのように亀裂研究の点で蓄積が乏しいが、亀裂に関する新たな視点もうかがえる。たとえば中東諸国において非民主主義体制が維持されている理由のひとつに、政権が野党を「親体制対反体制」に分断することにより野党全体を弱体化させてきたことがあげられる。反体制勢力の強さは合法性ではなく結束力に依存する。モロッコでは野党が合法政党と非合法政党に分断されたのに対し、ヨルダンでは野党がすべて非合法化されたことがあって野党の結束力を強めた（Lust-Okar [2004]）。もちろんこれは厳密な意味で亀裂ではないが、非民主主義体制が亀裂を上から操作する可能性を示唆している。他方Collins [2003] は中央アジア諸国の分析で、亀裂として一般にあげられる民族、宗教・宗派、階級・所得などの他に、氏族（clan）に着目し、これが他の亀裂を横断することにより社会を安定化させる（紛争を防止する）役割があると論じた。

4．途上国分析に向けて

亀裂の定義は当初曖昧だったが、慎重な議論をする研究者の間では1990年

代半ばまでに「最大条件定義」が共有されるようになった。現在支配的なこの定義によれば、亀裂とは社会的階層化・差別化の単なる結果ではない。社会的区分はそれが組織化され、固定化されたときにのみ亀裂に転化する。リップセットとロッカンの亀裂議論は新興民主主義国に適用範囲が広がられた。民主主義の定着を中心とするこれらの研究の大半は、彼らの諸仮説のそのままの適用をそもそも考えず、かわりに彼らの論理を利用し、一般的に(再)民主化後も亀裂をはっきりと反映する政党制が形成されず、かわりに包括政党が支配的であること、そしてとくに東欧(およびある程度ラテンアメリカについてもいえる)の再民主化諸国については、過去の新民主主義体制の影響が残り、それより前の民主主義体制や亀裂とのつながりが弱いことを見いだした。亀裂議論の新民主主義国への適用は極めて少なく、亀裂と政党制よりは政治体制との関連で、しかも体制が亀裂を操作する面から論じられやすい。

以上で示したように、開発途上国における亀裂と政党制についての実証研究はいまだに不十分であるが、本節が指摘した亀裂の定義の精緻化は、多様な開発途上国の政党制あるいは政治体制の分析に重要な分析視点を提示している。ある社会的属性の集団が共通の価値観を持つ共同体を形成している場合は(民族、部族、宗派など)、亀裂の発生に格好な土壌であるとともに開発途上国に多く見られる状況である。地域的に集中して居住する民族、家父長的支配下にある部族集団、同一の宗教・宗派の信徒からなる農村共同体や教団は(その組織により構成員を閉じこめる)閉鎖性を持っており、最大条件定義による亀裂の組織的条件を満たしているからである⁽²⁴⁾。また他方、開発途上国に残る新民主主義体制が、(亀裂を構成する)既存の価値観や組織を破壊・非政治化することで、あるいは逆に新たなイデオロギーや動員構造を構築・政治化することで、亀裂構造を再編、操作しうることも、最大条件定義から演繹できよう。

第2節 本書の概観

本節では、分析枠組みと主要概念を説明しながら、本書の構成を（順序的にではなく）機能的に概観する。本書は亀裂構造と政治体制の間の関係を、これまで中東欧やラテンアメリカと比べて研究が少ない西・中央アジアの諸国のなかで、トルコ、イエメン、シリア、カザフスタンを選んで分析する。これらの諸国はいずれも、少なくとも人口の1割程度の規模の亀裂集団（亀裂を形成する社会集団）を複数抱えている。これらの集団が、唯一ではないが主要な要因として、これらの諸国の亀裂構造を形成していることが予想される。また、政治体制としては、民主主義体制（トルコ、イエメン）、権威主義体制（シリア、カザフスタン）に分かれている。民主主義体制については亀裂構造が政党制をどのように規定しているかに、権威主義体制については政権が亀裂構造をどのように操作、統制しようとしているかに（もちろん、それぞれ逆の関係も両体制において存在するが）焦点をあてた。

本書の掲げる設問は4つある。(1)新興民主主義体制において 政党制が亀裂構造をどのように反映しているか、 急激な社会変化のなかで複数の亀裂の相対的重要性がどのように変化しつつあるか、(2)権威主義体制において 政治体制が亀裂構造をどのように操作して国家を統治しているのか、 その操作手段の選択はどのような亀裂構造上の制約を受けるのかである。すなわち、新興民主主義体制については社会 体制、権威主義体制については体制 社会の因果関係に焦点をあてる。ただし、それぞれの逆の関係が弱いながらも存在することを議論のなかで明らかにし、上述の議論を補完する。

本書の各論をなす4つの論文は、現在の民主主義体制の歴史が長い国から短い国へ、現在の権威主義体制の歴史が長い国から短い国へという順に、第2章「トルコ：『周辺』の多元化と政党制への反映」（間寧）、第3章「イエメン：政党政治の成立と亀裂」（松本弘）、第4章「シリア：権威主義体制に対

するクルド民族主義勢力の挑戦」(青山弘之), 第5章「カザフスタン: 権威主義体制における民族的亀裂の統制」(岡奈津子)と配置してある。

1. 亀裂

第1節で示したように, 亀裂を分析するにあたり理論的にもっとも精緻化された定義(最大条件定義)によれば亀裂は, 社会集団が(1)社会人口の属性と(2)価値観を共有する状態が(3)何らかの組織化により持続化, 固定化することにより発生する。途上国における実際の議論がこの定義を厳密に適用している例はほとんどないが, 本書はこの最大条件定義にできる限り従うことを目指した。各章が狭い枠組みを共有することで, そこに収まらない現象を各国の特徴として浮き上がらせることができるからである。本書が扱う亀裂で(2)を満たすものはほぼ自動的に(1)を満たすため, 各章では(2)の存在を先行研究や独自の分析で確認できれば, 最初の2つの条件((1)と(2))が満たされしていると判断した。最後に定義の3つの条件のうち, 既存研究でもっとも見過ごされがちだったのは(3)組織化であるので, これをやや詳しく説明する。「組織化」とは(1)と(2)の要素を特定の社会集団に封じ込め, 固定化させるためのものである。そのため, 組織化ないし固定化が自発的(政党, 社団, 労働組合など)でも, 自然発生的(原初的共同体など)でも, 強制的(国家による動員, 配属, 区割りなど)でも, かまわない。また, (1)と(2)を固定化することを組織化というとき, それは, 社会人口の属性および価値観を共有する集団をすべてひとつにまとめる形の組織化を意味しない。むしろ複数の組織に固定化される方が, 現実にはより一般的である。

表1は, 本書が亀裂の概念を, 特に(3)の組織化の側面で, 分析対象諸国にどのように適用したかを示したものである。このなかで, 自発的な組織化では, トルコにおける親イスラーム政党, 親クルド政党, 議会制民主主義期シリアの国民党と人民党(伝統的支配階級を代弁), バアス党や共産党(被支配階級を代弁), 権威主義体制期シリアのクルド民族主義政党が, 組織的基盤を提

表1 亀裂構造 西・中央アジア諸国

国	亀裂	社会人口的属性と価値観の組織化・固定化形態
トルコ	中心対周辺	支持政党
イエメン	地域的	持続的な政治対抗軸の形成
シリア	民族的	植民地期の少数派登用・自治権付与
カザフスタン	民族的	民族団体

（注）各章の分析の中心となる亀裂のみを示してあるが、これらは該当国のもっとも代表的な亀裂である。

（出所）本書各章をもとに筆者作成。

供している。強制的な組織化では、フランス委任統治時代のシリアにおける分割統治政策に見ることができる。フランスは、少数派宗派・民族に対し、レバント特別軍への任官で優遇したり、居住地域へ自治権を付与したりするなど、これらの集団を上から組織化した。カザフスタンの場合は自発的と強制的の中間である。多様な民族が国家の奨励と自らの意思の結果として個別の民族団体を形成し、民族的差異を組織的に固定化する役割を果たしたのである。ただし政権がこれらの民族団体をひとつの頂上団体に統合するという形で諸亀裂の「総元締め」となり、亀裂の非政治化を図った。イエメンにおける「地方間対抗軸」は地域的亀裂のいわば原初的形態である。組織化の外形的証左は見つけにくいだが、イエメン史のなかで政治的対抗軸として固定化、定着することにより、亀裂的機能を果たしてきた⁽²⁵⁾。

開発途上国においては（先行研究で見たように）経済構造に依拠する機能的亀裂（都市・農村および資本・労働）が目立たず、むしろ共同体に依拠する亀裂が強い。本書もこの例に漏れず、共同体に依拠する亀裂を中心的に扱っている。しかし具体的な亀裂は民族的（トルコ、シリア、カザフスタン）、宗教的（トルコ）、地域的（イエメン）と多様であるため、その国にとって重要な社会構造を峻別および相対化して議論するためには亀裂の概念が依然として有益だった。

2. 体制と政党制

以下では本書で用いる亀裂以外の主要概念である，政治体制，政党，および政党制についての定義を行う。まず，西・中央アジア諸国の政治体制については民主主義体制と権威主義体制の区分を用いる。民主主義体制は，自由で公平な選挙が定期的に行われているという手続的民主主義の基準を満たしている政治体制とした（Dahl [1971]，Diamond [1999]）。それを満たさない政治体制のうち，イデオロギーが全体主義ほどは強くなく，体制与党以外の政治勢力の活動が制限付きでも認められている体制を権威主義体制とした（Linz 1975]）。

次に政党に関する概念では，政治学でもっとも広く受け入れられている Sartori [1976] にもっぱら依拠した定義を行う。政党とは，選挙時に示される正式名称により認知される政治集団で⁽²⁶⁾（自由または自由でない）選挙のたびに公職への候補者を擁立できる能力を持つ（Sartori [1976: 63]）。すなわち政党は，その置かれた体制が民主主義であるか否かにかかわらず，選挙への参加をもっとも重要な識別基準として，その他の多様な団体と区別される⁽²⁷⁾。

諸政党の総体としての形態と機能は，その国の政治制度の大きな特徴である。民主主義体制における政党制には，有効政党数⁽²⁸⁾が1の一党優位制，同2の二大政党制，同3から5の限定的多党制，同6以上の極度多党制という種類（class）⁽²⁹⁾がある。本書の例では，一党優位制が1994年内戦後イエメン，多党制がトルコ⁽³⁰⁾，内戦前イエメンに見られる。

競争的な選挙が行われない（非民主主義）体制においては2つの種類がある。唯一の政党しか存在しない一党制と，唯一の中心的な政党の他に従属的な政党が存在するヘゲモニー政党制である。他の従属的な政党を認めているという点で，シリアとカザフスタンの体制は後者により近く，限定的ながら政治的多様性が認められている。ただし，本書では権威主義体制については亀裂と政党制の関係よりも，むしろ体制による亀裂操作を中心に上げた。

他方、個々の政党を亀裂の観点から区別することもできる。包括政党は、特定の亀裂に依拠しない広範な(diffuse)支持基盤を持つ政党である。その特徴は、(1)政党のイデオロギー的装備の大幅な減少、(2)政党指導集団の強化、(3)個人党員の役割の低下、(4)支持者獲得で、特定の社会階層や宗派偏重をやめ、一般有権者を重視、(5)多様な利益団体との繋ぎの確保、などである(Bogdanor ed. [1991: 76]³¹⁾。本書で扱う例では、内戦後イエメンの与党である国民全体会議、およびトルコの中道右派ないし中道左派の諸政党がこれにもっとも近い。

亀裂政党は特定の亀裂に依拠する支持基盤を持つ政党である。西欧の場合には党員比率が高いために大衆政党とほぼ同一視されていたが、途上国の場合には必ずしもあてはまらない。エリート政党、大衆政党、包括政党などに比べて明確な定義はない。本書で扱う例では、トルコの親イスラーム政党、親クルド政党、イエメンの内戦前の諸政党、およびシリアのクルド民族主義政党がこれにもっとも近い。

第3節 主な知見

第1節の先行研究概観は民主主義的な体制においては亀裂構造が政治体制(とくに政党制)を、非民主主義的な体制においては政治体制が亀裂構造を、より強く規定することを明らかにしたが、本書の各論における分析結果も、この関係を裏付けた。本節ではまず、西・中央アジアにおける民主主義体制では亀裂構造は政党制にどのように反映されているのか、次に、同地域における権威主義体制では、体制は亀裂をどのように操作しているのか、という見地から、本書の主な知見をまとめる。それに先立ち、国別分析結果を政治体制と亀裂反映の差異により4つのパターンに分けたのが表2である。第1は、民主主義体制で亀裂反映が強い、トルコ、内戦前イエメン、第2は、民主主義体制で亀裂反映が弱い、内戦後イエメン、第3は、権威主義体制で亀

表2 政治体制と亀裂反映による分類 西・中央アジア諸国

		政治体制 ¹⁾	
		民主主義体制	権威主義体制
亀裂反映	強い	トルコ, 内戦前イエメン ²⁾ 多党制 亀裂政党台頭	シリア 亀裂に沿った排除 クルド民族の制度的差別化
	弱い	内戦後イエメン 一党優位制 包括政党台頭	カザフスタン 亀裂統合的内包 非カザフ民族エリート統制

(注) 各セルの は、政治勢力間の競合・支配関係を示す。 は、 を示す代表的事象。

1) 民主主義体制は、公平で競争的な選挙が定期的に行われているという手続的民主主義の基準を満たしている政治体制とした。それを満たさない政治体制のうち、イデオロギーが全体主義ほどは強くなく、体制与党以外の政治勢力の活動が制限付きでも認められている体制を権威主義体制とした (Linz [1975])。排除、内包という表現は、Sartori [1976: 227, 231] と Huntington [1970] の議論をもとにした。

2) 内戦とは1994年イエメン内戦を指す。

(出所) 本書各章を参考に筆者作成。

裂反映が強いシリア、第4は権威主義体制で亀裂反映が弱いカザフスタンである。以下ではこのような類型の実証的根拠を示す。

1. 民主主義体制における亀裂構造の反映 トルコ、イエメン

まず、民主主義体制で亀裂構造の反映が強い例としてトルコをあげることができる。トルコにおける亀裂のなかでこれまでもっとも重要なのは「中心・周辺」亀裂であったが、同国の最近の研究では「中心・周辺」を個人的属性に帰したり、「周辺」を一元的に議論したりする傾向が強かった。本書第2章は周辺を構成する⁽¹⁾イスラーム宗教性と⁽²⁾クルド民族性について、個人レベルでの社会的人口属性や価値観がそれら要因を代弁する亀裂政党への支持に結びついていること、さらに地域的特性がその関係に影響を与えていることを、政治意識調査データの分析から導いた。また、クルド民族性の強さがもはや親イスラーム政党支持には繋がらないことを個人レベルおよび地域レベ

ルで確認し、「周辺」内が多元化していることを示した。

「周辺」の多元化過程では、イスラーム宗教性とクルド民族性が亀裂の固定化（政党との結びつき）でそれぞれ異なる経路を辿った。親イスラーム政党が1970年に結党を果たしたにもかかわらず、敬虔スンナ派有権者をめぐって長い間、包括政党との競争を強いられたのに対し、親クルド政党は1990年結党の直後に支持基盤を確立した。そのもっとも大きな理由は、敬虔スンナ派有権者という大きな選挙市場は参入の利益が大きいために過当競争を招いたのに対し、クルド有権者からなる選挙市場が比較的狭く参入の利益が少ないことに加えて国家による制裁の危険をもともなっていたことから同市場への参入政党が少なかったことによる。

民主主義体制のもうひとつの例であるイエメンでは、亀裂構造の政治体制への反映が近年弱まりつつある。イエメンにおける亀裂構造の特徴は、近年まで国家的中心が弱いために、中心対周辺というとらえ方があてはまらないことである。そのため本書第3章によれば、「『中心』もひとつの『地方』である」。第3章は、まずイエメンにおける地域的・社会構造上の差異に依拠する対抗軸を地方間対抗軸と定義し、それが政治勢力と結びつき固定化した場合に亀裂とみなすという綿密な概念化を行った。イエメン人の帰属意識の歴史的な形成から今日のイエメン政治までのその歴史的考察によれば、1990年の南北統一後イエメンにおける亀裂は、北イエメン対南イエメン、さらに北イエメン内部における保守的な北部対革新的な南部という二重構造的な3地域間地方対抗軸として捉えられる。

このような背景からすると、イエメンで最初の民主的選挙である1993年総選挙で登場した政党制が中心対周辺ではなく地方間対抗軸に依拠していたとの知見は納得がいく。ただし選挙後、第1党は野党との対峙を避けて挙国一致内閣を選択したために、当初の思惑とは逆に、本来議会で展開されるべき与野党対立ないし政党間競合が閣内に持ち込まれ、政治的危機を誘発し、さらには内戦にまで発展した。内戦での北側勝利で政治均衡が北側の圧倒的有利に転じると、北イエメン北部を基盤としていた与党国民全体会議の影響

が全土に浸透した。そして内戦後に総選挙が2回実施されると、地方間対抗軸の政党制への反映度合いが低下していった。同時に、国民全体会議の性格も亀裂政党から包括政党へと変質した。イエメンの政党制は、「中心対周辺」が新たな政治軸として台頭する兆しを見せている。

2. 権威主義体制における亀裂の操作 シリア, カザフスタン

権威主義体制で亀裂反映が強いのはシリアの場合である。本書第4章は、社会的に存在した亀裂に起因する恣意的差別を政治制度上で正式化する排除の統治方法を、「非クルド民族（実質的にはアラブ民族）対クルド民族」という亀裂を例に示した。アラブ民族主義に依拠する政権、とりわけ権威主義体制を敷くバース党政権は1960年代以降、一部クルド人のシリア国籍剥奪、農地からのクルド人追放、さらに市・村名のアラビア語への変更やクルド語使用の制限などにより、社会の対クルド差別意識を制度化したのである。

すなわち体制側がクルド人を（国民として否定する、あるいはアラブ文化に同化させるなど）公的領域における存在を否定する形で差別したことは、むしろ被差別者であるクルド民族主義勢力による民族的意識の発揚を促し、政治的に結集するための潜在的な軸を与える結果にもなった。その結集軸は確かに歴代政権による厳しい弾圧と統制のもとでは抵抗力を欠いていた。しかし権威主義政権が（「世襲」批判や外圧などを考慮して）限定的な政治的自由化を開始すると、クルド民族主義運動は勢いを増した。ただし現政権がクルド民族主義勢力に対し抑圧に転じた結果、クルド民族運動の内在的分裂が再度露呈されることになった。シリアの事例は、体制による存在否定的差別が被差別者側の存在意識、ひいては亀裂的な認識を強めさせること、また政治的抑圧がクルド民族主義勢力の内部分裂・対立と、クルド大衆からの乖離を生んだことを明らかにした。

権威主義体制で亀裂反映が弱いのはカザフスタンの場合である。基幹民族（カザフ人）以外の民族が人口のほぼ半数を占めるこの多民族国家において、

民族的動員や紛争はほとんど起きず政治的安定性が保たれている。本書第5章はそれが社会構造面からは充分説明しきれないとした。そして、国家による民族エリートの統制（抑圧と懐柔からなる）により民族的亀裂を統合的に内包していることを示した。そのために中心的な役割を果たしているのが（形式的には大統領諮問会議である）カザフスタン諸民族会議である。

1995年に設立された同会議には、民族文化保護などを目的とする非政治的な民族団体が加盟している。ロシア人団体は独立当初から国籍や憲法上の言語規定に関する政治的要求を掲げ、同会議設立後もその外で活動していたが、ナザルバエフ政権は次第にロシア人団体を締めつけるとともにその指導者たちを懐柔して体制支持派に転換させていった。その結果としてほとんどすべての民族団体が同会議に統合されたのである。統制の実践と結果は、選挙において体制派諸政党が選挙区の民族構成をある程度反映した候補を立て、民族団体が体制派候補を支持していることに見られる。すなわち、政権は非カザフ民族に対してそのエリートへ役職配分したり民族意識に配慮を示したりする一方、非カザフ民族側は体制恭順の意志を表明しているのである。

3. まとめ 競合と支配の構図

ここでは以上の知見を、西・中央アジア諸国における社会勢力間の競合・異議申立て、支配・排除、およびその関係の変化という観点からまとめてみたい。まず、政権をめぐる政治勢力の競争や異議申立てはどの亀裂（あるいはその萌芽形態）を軸に展開されているのだろうか。本書ではこの問いを、もっぱら民主主義体制について議論した。トルコにおいては途上国で広く見られる「中心対周辺」亀裂であるのに対し、イエメンにおいては歴史的には中心と呼べるものが存在せず、かわりに「地方間対抗軸」が亀裂的な作用を果たしてきた。

次に、どの社会勢力が、そしてなぜ、国家機構を支配あるいはそれに浸透できる、また逆に排除されるのだろうか。本書ではこの問題について、権威

主義体制を中心に考察し、民族を軸とする支配、浸透、排除の対照的な過程を描き出した。すなわちシリアにおいては、クルド民族が国家により制度的にはあれ排除・差別されてきたのに対し、カザフスタンにおいては近年、大統領専制の度合いは強まったものの、体制は民族的排除ではなく民族エリートの抑圧と懐柔という方法を採用している。それではなぜ、シリアとカザフスタンの亀裂操作方法に違いがあるのだろうか。国別の説明は多様な要因を必要とするであろうが、2国の違いに限るならば2つの理由が考えられる。

ひとつは、被支配側の民族の人口比率の違いである。同比率が小さい場合（シリア人口の1割弱のクルド民族）には排除が、同比率が大きい場合（カザフスタン人口の半分弱の非カザフ民族）には懐柔政策が採られている。相当規模の民族集団に対する差別や抑圧は、社会全体を著しく不安定にするし、被差別側の抗議を押さえつけるための大規模な治安維持装置が必要になるであろう。もうひとつには、両国の歴史的背景ないし経路依存性である。シリアでは1940年代を中心にクルド系士官が軍事クーデタをたびたび起こしたことや、隣国（トルコ、イラクなど）でのクルド民族主義勢力による反政府運動の高揚が、クルド民族に対する反感や警戒心を高めた。そのような社会意識を背景に、クルド民族は歴代政権のアラブ性を正当化するためのスケープゴートにされた。他方、カザフスタンは独立直後の時期に少数派（とくにロシア人）の民族帰属意識に依拠する政治的競合状態を経験していた。そのため、為政者は自らの支配の正当性をも考慮するならば、各民族の帰属意識を完全には否定しきれなかったのであろう。

最後に、急激な社会変化のなかで多様な亀裂の相対的重要性はどのように変化しつつあるのだろうか。簡潔に言えば、亀裂構造が自律的にしかも大きく変わることがないことは、トルコの「中心・周辺」亀裂、イエメンの地方間対抗軸（地域的亀裂）、カザフスタンの民族的亀裂の持続性から明らかになった。シリアの場合も、議会制民主主義時代の亀裂構造は消滅したというよりは、権威主義体制の導入により改造された。むしろ、政治的競争や政治的支配における亀裂の重要性が、体制変革や政治状況により中短期的に変化

してきた。イエメンは南北統一、複数政党制導入、内戦と再建という大きな政治変動をわずか10年程度の間を経験したが、既存の地方間対抗軸自体ではなく、それに向き合う政治勢力の結集の形が変わったにすぎない。トルコでも、「中心対周辺」が基軸であることに変わりはないものの、2002年に「周辺」を代弁する親イスラーム政党の単独政権誕生という中心・周辺の支配関係の逆転現象 および親イスラーム政党と親クルド政党の台頭が象徴する「周辺」内部での構造分化という変化を指摘できる。

おわりに

本書は、実証的分析が難しい西・中央アジア地域における政治体制を、狭義の亀裂概念を用いて分析した数少ない研究のひとつである。その意味で、概念の適用方法について強引で洗練性を欠く点が多々あると思われる。しかし、この研究を通じて2点が明らかになった。第1に、亀裂およびその政治的影響を考察するにあたっては、社会的属性や価値観が特定集団において固定化しているかどうかという視点が欠かせない。それは亀裂が社会的差異の単なる言い換えでないことを確保する。第2に、使用する概念について明確な意識を持っている場合、既存研究や入手可能データが少ない国についてであっても、所与の証拠の再構築により、その概念が意図する分析枠組みを実現することができる。この総論を執筆するに際し、筆者は各論からこれらを身をもって学んだ。

〔注〕

- (1) すなわち、民主化の第2と第3の波（Huntington [1991]）に含まれる国々である。
- (2) 本節は間 [2006] を改稿したものである。
- (3) 統合的文献レビューは“research synthesis”や“integrative review”と呼ばれる。それは実証研究に焦点をあて、（関連するかまたは同じ仮説を扱う）多

くの個別調査から総合的な結論を導き出すことにより過去の研究を総括する (Cooper [1998: 3])。これ以外に、当該研究の既存研究での位置づけを明らかにする関連文献レビュー (context review)、特定の問題を時系列的に跡づける歴史的文献レビュー (historical review)、重要な理論を比較検討する理論的文献レビュー (theoretical review)、実証結果が方法論によりどのように異なるかを分析する方法論的文献レビュー (methodological review、統合的文献レビューの一種) などがある (Neuman [2003: 97])。

- (4) 政治体制の定義については第 2 節 2 参照。
- (5) とくに選挙制度が重要視される。たとえば Lijphart [1990 , 1994], Rae [1971], Sartori [1976]。
- (6) 彼らのいうところの民主化で、Huntington [1991] の「民主化の第 1 の波」にあたる。
- (7) リップセットとロッキンの国民国家建国過程の説明はさらに細かい。中心が周辺に、国家が教会権力に浸透していく過程で、周辺や教会の勢力がこれに反発して反対勢力となり、中心ないし国家との間に亀裂が形成された。個々の反対勢力は単独では弱かったが連合することにより対抗力を強め、ついには選挙での勝利により中心を支配することになった。
- (8) Lipset and Rokkan eds. [1967] の分析枠組み、つまり社会的構造が政党制を規定するという考えは、現在でも政党制分析の基本であるが、彼らの「亀裂凍結」仮説は 1960 年代以降の投票行動の流動化を充分説明できない (Dalton, Beck, and Flanagan [1984], Franklin [1992], Ersson and Lane [1998], Lane and Ersson [1987], Mair [1993 , 2001])。

先進国におけるこれまでの議論は凍結仮説に集中しすぎた観があるが、これ以外にも重要な視点がある。たとえば亀裂の深さや数と政党制の関係である。Bartolini and Mair [1990] は、深い亀裂が投票流動性 (2 つの連続した選挙の間に有権者が支持政党を変える傾向) を抑えることを示した。亀裂の強さを各国別に 4 変数 (民族・言語多様性、宗教多様性、左派政党党员比率、労働組合集約率) の合成指標で測ると、その強さは投票流動性と負の相関関係にあった。これは、投票者の集団帰属意識が強いほど支持政党を選挙ごとに変えにくいからであるとされた。スイスにおいて各カントン (州) の政党数が都市化度や宗派多様性が高いほど多いことも、亀裂と政党との有意な対応関係を示している (Vatter [2003])。また別の視点として、政党制の変化を亀裂のみで説明しようとすることに対する批判も存在する。投票者は実際に亀裂を反映する政党が存在しなければ「政党選択権」を行使できないからである。Graaf, Health, and Need [2001] は、1970 年代から 1990 年代にかけてのオランダでは階級的投票行動の低下は長期趨勢的な社会的要因に帰せられるものの、宗派的投票行動の低下はキリスト教宗派政党の合併およびカトリック教徒の政党帰属意識の低下

という政治的要因により生じたことを明らかにした。

- (9) 亀裂定義の1960年代から今日までの変遷と類型については間 [2006] 参照。
Bartolini and Mair [1990: 216] は、亀裂を社会関係の閉鎖形態 (a form of closure of social relationships) と表現している。
- (11) Lipset and Rokkan [1967: 34] は彼らの課題が、亀裂基盤 (cleavage base) と政党配列 (party constellations) の国別違いを説明する枠組みを提示することであると述べている。彼らは3つの歴史的転機における国別対応の違い、すなわち(1)宗教改革後に国家が教会を支配したか、それとも教会と連帯したか、(2)市民革命後の国家が教育機関の支配を確立できたかどうか、(3)産業革命初期において農村利益と新興商業・産業利益のどちらが優勢だったか、という点から、 $2 \times 2 \times 2$ の合計8つのパターンを明らかにした (Lipset and Rokkan [1967: 37-41])。
- (12) 現在支配的な議論では、民主主義の定着は、簡単にいえばエリートと大衆の両方が民主主義制度を唯一のゲームのルールとして認めた状態を指す (Linz and Stepan [1996: 1-15])。ただしこの定義は、「ゲームのルール」が法的 (フォーマルな) 制度として確立されているのか、それとも非法的 (インフォーマルな) 関係に依拠しているのかが議論されていないことなどの点で批判もある (O'Donnell [1996])。インフォーマルに定着した民主主義体制をO'Donnell [1994] は委任型民主主義と呼んだ。
- (13) 例として彼女は、(1)とくにアフリカなどでは階級的亀裂が弱く、民族的、地域的亀裂が強いこと、(2)韓国では労働者階級が現われてもそれが労働者政党の形成に必ずしも繋がらないこと、(3)ジャマイカでは二大政党のイデオロギーと支持基盤が大きく揺れ動いてきたこと、(4)インドやアフリカでは国民国家形成期に多様な亀裂が (否定されずに) 国民政党に統合されたことなどを挙げた。彼女はこれ以外の理由としても大衆政党の欠如とクライアンテリズムの強さ、議会制の度重なる中断、国民統合未熟なうちの政党政治開始、植民地支配の残存効果などさまざまな違いを指摘した。
- (14) 大統領制の韓国に対して、議院内閣制のスペインでは、地域主義的亀裂が強いほど地方議会での政党の数が増える傾向が見られた (Penas [2004])。
- (15) 第2節2の定義を参照。
- (16) ところで、亀裂反映の弱さと包括政党優位という新興民主主義国の政党制の特徴を、政党制発展上の遅れと解釈することは適当でない。旧共産圏でも東欧諸国が民主化後も (明確なイデオロギーを持ち個別的亀裂に依拠する) 大衆政党を経験しなかったことを、Kitschelt [2001] は「後発の利益」と捉えている。西欧では大衆政党が近年衰退したからである。またインドにおいては近年、包括政党だった国民会議派の低落と同時に、亀裂が政党制に反映されるようになっていくが、これをもってのみ政党制の定着が進んだとはいえない。イン

ドでは社会集団の組織化が遅れていることや国家の社会・経済政策がかなり介入的であることから、亀裂と政党制の関係を政党制がより強く規定している。その結果、政党間対立が亀裂の緊張を高めることになったからである（Chhibber [1999]）。

- (17) これら大統領制で典型的なのは、選挙での勝利（縦の説明責任）のみにもっぱら依拠し、立法府や司法府（横の説明責任）を軽視して強権的に統治する委任型民主主義（O'Donnell [1994]）である。
- (18) ところで旧共産主義国についての特徴は、共産党ほど組織力を持つ政党が他の民主化諸国には見られないことであり（Budge and Newton et al. [1997: 216]）、その現体制への影響力は大きい。Kitschelt et al. [1999] は、民主化以前の政治体制上の差異が民主化後の政治経済的發展に影響を与えていることを発見した。Cotta [1994] は共産化以前と共産主義崩壊後の政党制の継続性・断絶性について考察し、西欧で非民主主義体制を経験した国の再民主化例に比べて東欧の再民主化においては、過去（の民主主義体制）との断絶性の方が継続性より強いことを指摘した。その理由は、最初の民主体制での政党制が未熟であったこと、西欧のファシズム政党と違い、東欧では共産党が再民主化後も完全には消えなかったことなどである。共産主義からの体制移行後初の総選挙で勝利した野党は、共産主義体制下では野党としてではなく反体制派の社会運動として活動していた（Lewis [2001: 545-546]）。
- (19) たとえばメキシコの国民行動党（PAN、2000年に初の政権交代実現）やトルコの民主党（DP、1950年に最初の政権交代実現）のように、農民と実業家を支持基盤とするハイブリッドな政党が生まれる。PANの支持基盤については岸川毅氏（上智大学）の指摘による。
- (20) 先進民主主義国では亀裂が交差していたために複数政党制が誕生した。重複していた場合は亀裂が「国際化」し、アイルランドがイギリスから、ノルウェーがスウェーデンから分離独立したことで社会の二分化は解消された（Huntington [1970: 11]）。支配勢力が被支配勢力を制度から排除し続け、社会の二分化を維持するのが排除型一党制、支配勢力が被支配勢力を同化あるいは抹殺するのが革命型一党制である。排除型一党制は被支配勢力を制度に取り込むという形で民主化する可能性を、革命型一党制は脱イデオロギー化や継承方法の制度化などにより確立型一党制へ向かう可能性を持っている（Huntington [1970: 17-40]）。
- (21) しかもこれらの研究はおおむね叙述的である。
- (22) 両パターンでは明確なあるいは恒常的な多数派と少数派が生まれにくいために多数派対少数派の対立が起きにくい。
- (23) 例外としては、工士士の官僚登用を扱ったAbu-Akeel and Moore [1977] がある。

- ②4 Bartolini and Mair [1990: 218] も、民族・言語的共同体または周辺の共同体に依拠する亀裂は、(階級的または宗教的[世俗対信仰] 亀裂とは異なり) まったく閉鎖的な社会関係を容易に生み出すと指摘した。
- ②5 「地方間対抗軸」は、それが③の組織を共有するかどうかが既存研究では不明だった。第3章は亀裂の存在を実証するのではなく、「地方間対抗軸」がイエメン史のなかでいかに政治化および固定化してきたかを先駆的に明らかにした。
- ②6 正式名称に「党」が含まれている必要はない。
- ②7 この定義は名目的、外形的定義であり、政党の機能をすべて表現してはいないが、客観的識別基準を持っているのでこれを採用した。政党の本質的、機能的定義の試みは幾多もあるが、これらは結果として他の政治組織との明確な区別ができなかったためである (Sartori [1976: 56-70])。
- ②8 有効政党数は、(1)連立政権に参加できる議席規模を持っておりかつ、(2)他の政党の競争戦術に影響を与えることができる政党の数と定義される (Sartori [1976: 122-123])。
- ②9 Sartori [1976: 129] は、(形式による) 分類 (classification) と (性質による) 類型 (typology) を分けて議論しているが、実際には両者の関連性は非常に高い。
- ③0 2002年までの傾向は極度多党制だった。2002年総選挙では与党が大敗したために、野党のうち2党のみが議席獲得に必要な10%の票を獲得し、外見上は二大政党制になったが、両党合わせた得票率は5割にすぎなかった。このため、トルコは多党制と形容するのが適切である。
- ③1 包括政党 (catch-all parties) の名付け親は、キルチハイマー (Otto Kirchheimer) である。彼は、エリート政党 (cadre parties) も大衆政党 (mass membership parties) も、できるだけ多くの異なる集団の有権者集団を引きつけようとする傾向を強めていることを指摘した。もちろん西欧においてもこの傾向は強まっている。西欧における包括政党は第2次世界大戦後に台頭した (Puhle [2003: 66-68])。

〔参考文献〕

< 日本語文献 >

間 寧 [2006] 「亀裂構造と政党制 概念整理と新興民主主義国への適用」
 (『アジア経済』第47巻第5号、5月) 69～85ページ。

< 英語文献 >

- Abramson, Paul R. and Ronald Inglehart [1995] *Value Change in Global Perspective*, Ann Arbor: University of Michigan Press.
- Abu-Akeel, A. Hadi and Clement Henry Moore[1977] 'The Class Origin of Egyptian Engineer-Technocrats,' in C. A. O. Van Nieuwenhuijze ed., *Commoners, Climbers and Notables: A Sampler of Studies on Social Ranking in the Middle East*, Leiden: E. J. Brill.
- Barakat, Halim [1993] *The Arab World: Society, Culture, and State*, Berkeley: University of California Press.
- Bartolini, Stefano and Peter Mair [1990] *Identity, Competition, and Electoral Availability: The Stabilisation of European Electorates 1885-1985*, Cambridge: Cambridge University Press.
- Ben-Dor, Gabriel [1988] "Ethnopolitics and the Middle Eastern State," in Milton J. Esman and Itamar Rabinovich eds., *Ethnicity, Pluralism, and the State in the Middle East*, Ithaca: Cornell University Press.
- Bengio, Ofra and Gabriel Ben-Dor eds. [1999] *Minorities and the State in the Arab World*, Boulder: Lynne Rienner.
- Binder, Leonard [1978] *In a Moment of Enthusiasm: Political Power and the Second Stratum in Egypt*, Chicago: University of Chicago Press.
- [1999] *Ethnic Conflict and International Politics in the Middle East*, Gainesville: University Press of Florida.
- Bogdanor, Vernon ed. [1991] *The Blackwell Encyclopaedia of Political Science*, Oxford: Blackwell.
- Budge, Ian and Kenneth Newton et al.[1997] *The Politics of the New Europe: Atlantic to Urals*, London: Longman.
- Chhibber, Pradeep K. [1999] *Democracy without Associations: Transformation of the Party System and Social Cleavages in India*, Ann Arbor: University of Michigan Press.
- Collier, Paul and Anke Hoeffler [2001] "Greed and Grievance in Civil War," World Bank (<http://econ.worldbank.org/programs/library>).
- Collins, Kathleen [2003] "The Political Role of Clans in Central Asia," *Comparative Politics*, 35(2), pp. 171-190.
- Cooper, Harris [1998] *Synthesizing Research Third Edition: A Guide for Literature Reviews*, Thousand Oaks: Sage.
- Cotta, Maurizio[1994] "Building Party Systems after the Dictatorship," in Geoffrey Pridham and Tatu Vanhanen eds., *Democratization in Eastern Europe: Domestic and International Perspectives*, London: Routledge.

- Dahl, Robert A. [1966a] " Some Explanations, " in Robert A. Dahl ed., *Political Oppositions in Western Democracies*, New Haven: Yale University Press.
- [1966b] The American Oppositions: Affirmation and Denial, "in Robert A. Dahl ed., *Political Oppositions in Western Democracies*, New Haven: Yale University Press.
- [1971] *Polyarchy: Participation and Opposition*, New Haven: Yale University Press.
- [1973] " Introduction, " in Robert A. Dahl ed., *Regimes and Oppositions*, New Haven: Yale University Press.
- Dalton, Russell J., Paul Allen Beck, and Scott C. Flanagan [1984] " Electoral Change in Advance Industrial Democracies, " in Russell J. Dalton, Scott C. Flanagan, and Paul Allen Beck eds., *Electoral Change in Advanced Industrial Democracies: Realignment or Dealignment?* Princeton: Princeton University Press.
- Diamond, Larry [1999] *Developing Democracy: Toward Consolidation*, Baltimore: Johns Hopkins University Press.
- Dix, Robert H. [1989] " Cleavage Structures and Party Systems in Latin America, " *Comparative Politics*, 22(1) , pp. 23-37.
- Dominguez, Jorge I. and James A. McCann [1995] " Shaping Mexico's Electoral Arena: The Construction of Partisan Cleavages in the 1988 and 1991 National Elections, " *American Political Science Review*, 89(1) , pp. 34-48.
- Ersson, Svante and Jan-Erik Lane [1998] " Electoral Instability and Party System Change in Western Europe, " in Paul Pennings and Jan-Erik Lane eds., *Comparing Party System Change*, London: Routledge.
- Esman, Milton J. and Itamar Rabinovich eds[1988] *Ethnicity, Pluralism, and the State in the Middle East*, Ithaca: Cornell University Press.
- Evans, Geoffrey [1999] " Class and Voting: Disrupting the Orthodoxy, " in Geoffrey Evans ed., *The End of Class Politics: Class Voting in Comparative Context*, Oxford: Oxford University Press.
- Evans, Geoffrey and Stephen Whitefield [1995] " Economic Ideology and Political Success: Communist Successor Parties in the Czech Republic, Slovakia and Hungary Compared, " *Party Politics*, 1, pp. 565-578.
- Fearon, James D. and David D Laitin [2003] " Ethnicity, Insurgency, and Civil War, " *American Political Science Review*, 97(1) , pp. 75-90.
- Flora, Peter ed.[1999] *State Formation, Nation-Building and Mass Politics in Europe: The Theory of Stein Rokkan*, with Stein Kuhnle and Derek Urwin, Oxford: Oxford University Press.

- Fox, Jonathan and Iris Margulies [2002] " The Impact of Religion and Regime on Ethnic Conflict in the Middle East, "in Moshe Ma'oz and Gabriel Sheffer eds., *Middle Eastern Minorities and Diasporas*, Brighton: Sussex Academic Press.
- Franklin, Mark [1992] " The Decline of Cleavage Politics, " in Mark Franklin et al., *Electoral Change: Responses to Evolving Social and Attitudinal Structures in Western Countries*, Cambridge: Cambridge University Press.
- Gallagher, Michael, Michael Laver, and Peter Mair[1992]*Representative Government in Western Europe*, London: McGraw Hill.
- Geddes, Barbara[1996] Initiation of New Democratic Institutions in Eastern Europe and Latin America, " in Arend Lijphart and Carlos H. Waisman eds., *Institutional Design in New Democracies: Eastern Europe and Latin America*, Boulder: Westview, pp. 15-41.
- [2003] *Paradigms and Sand Castles: Theory Building and Research Design in Comparative Politics*, Ann Arbor: University of Michigan Press.
- Graaf, Nan Dirk de, Anthony Heath, and Ariana Need [2001] " Declining Cleavages and Political Choices: The Interplay of Social and Political Factors in the Netherlands, " *Electoral Studies*, 20, pp. 1 -15.
- Gurr, Ted Robert [1993] " Why Minorities Rebel, " *International Political Science Review*, 14, pp. 161-201.
- Horowitz, Donald L. [1985] *Ethnic Groups in Conflict*, Berkeley: University of California Press.
- Huntington, Samuel P. [1970] " Social and Institutional Dynamics of One-Party Systems, " in Samuel P. Huntington and Clement H. Moore eds., *Authoritarian Politics in Modern Society*, New York: Basic Books.
- [1991]*The Third Wave: Democratization in the Late Twentieth Century*, Norman: University of Oklahoma Press.
- Inglehart, Ronald [1981] " Post-Materialism in an Environment of Insecurity, " *American Political Science Review*, 75, pp. 880-900.
- [1984] " The Changing Structure of Political Cleavages in Western Society, " in Russell J. Dalton, Scott C. Flanagan, and Paul Allen Beck eds., *Electoral Change in Advanced Industrial Democracies: Realignment or Dealignment?* Princeton : Princeton University Press.
- [1997] *Modernization and Postmodernization: Cultural, Economic, and Political Change in 43 Societies*, Princeton: Princeton University Press.
- Jagers, Keith and Ted Robert Gurr[1995] Tracking Democracy's Third Wave with the Polity III Data, " *Journal of Peace Research*, 32(4) , pp. 469-482.
- Jones, Mark P. and Scott Mainwaring [2003] " The Nationalization of Parties and

- Party Systems: An Empirical Measure and an Application to the Americas," *Party Politics*, 9(2), pp. 139-166.
- Kenney, Charles D. [2003] "The Death and Rebirth of a Party System, Peru 1978-2001," *Comparative Political Studies*, 36(10), pp. 1210-1239.
- Kerr, Henry H. Jr [1974] *Switzerland: Social Cleavages and Partisan Conflict*, London: Sage.
- Kitschelt, Herbert [1995] "Formation of Party Cleavages in Post-Communist Democracies: Theoretical Propositions," *Party Politics*, 1, pp. 447-472.
- [2001] "Divergent Paths of Postcommunist Democracies," in Larry Diamond and Richard Gunther eds., *Political Parties and Democracy*, Baltimore: Johns Hopkins University Press.
- Kitschelt, Herbert et al. [1999] *Post-Communist Party Systems: Competition, Representation, and Inter-Party Cooperation*, Cambridge: Cambridge University Press.
- Knutsen, Oddbjørn [1989] "Cleavage Dimensions in Ten West European Countries: A Comparative Empirical Analysis," *Comparative Political Studies*, 21, pp. 495-534.
- Knutsen, Oddbjørn and Elinor Scarborough [1995] "Cleavage Politics," in Jan W. Van Deth and Elinor Scarbrough eds., *Beliefs in Government Volume Four: The Impact of Values*, Oxford: Oxford University Press.
- Laitin, David. D. [1985] "Hegemony and Religious Conflict: British Imperial Control and Political Cleavages in Yorubaland," in Peter B. Evans, Dietrich Rueschemeyer, and Theda Skocpol eds. *Bringing the State Back in*, Cambridge: Cambridge University Press.
- [1986] *Hegemony and Culture: Politics and Religious Change among the Yoruba*, Chicago: University of Chicago Press.
- Lane, Jan-Erik and Svante Ersson [1987] *Politics and Society in Western Europe*, London: Sage.
- [1999] *Politics and Society in Western Europe*, 4th ed., London: Sage.
- Lawson, Kay [1999] "Cleavages, Parties, and Voters," in Kay Lawson, Andrea Römmele, and Georgi Karasimeonov eds., *Cleavages, Parties, and Voters: Studies from Bulgaria, the Czech Republic, Hungary, Poland, and Romania*, Westport: Praeger.
- Lewis, Paul G. [2001] "The Third Wave of Democracy in Eastern Europe: Comparative Perspectives on Party Roles and Political Development," *Party Politics*, 7(5), pp. 543-565.
- Lijphart, Arend [1977] *Democracy in Plural Societies: A Comparative Exploration*, New

- Haven: Yale University Press.
- [1990] " The Political Consequences of Electoral Laws, 1945-85, " *American Political Science Review*, 84, pp. 481-496.
- [1994] *Electoral Systems and Party Systems: A Study of Twenty-Seven Democracies: 1945-1990*, Oxford: Oxford University Press.
- [1999] *Patterns of Democracy: Government Forms and Performance in Thirty-Six Countries*, New Haven: Yale University Press.
- Linz, Juan J. [1975] " Totalitarian and Authoritarian Regimes, " in Fred I. Greenstein and Nelson W. Polsby eds., *Handbook of Political Science, Vol.3: Macropolitical Theory*, Reading: Addison-Wesley 高橋進監訳『全体主義体制と権威主義体制』法律文化社 1995年).
- [1990] " The Perils of Presidentialism, " *Journal of Democracy*, 1, pp. 51-69.
- Linz, Juan J. and Alfred Stepan [1996] *Problems of Democratic Transition and Consolidation: Southern Europe, South America, and Post-Communist Europe*, Baltimore: Johns Hopkins University Press.
- Lipset, Seymour Martin [1988 (1970)] *Revolution and Counterrevolution: Change and Persistence in Social Structures*, revised, with a new introduction by the author, New Brunswick: Transaction.
- Lipset, Seymour M. and Stein Rokkan [1967] " Cleavage Structures, Party Systems, and Voter Alignments: An Introduction, " in Seymour M. Lipset and Stein Rokkan eds., *Party Systems and Voter Alignments*, New York: Free Press.
- eds. [1967] *Party Systems and Voter Alignments*, New York: Free Press.
- Lust-Okar, Ellen [2004] " The Management and Manipulation of Political Opposition, " *Comparative Politics*, 36 (2) , pp. 159-179.
- Ma'oz, Moshe and Gabriel Sheffer eds. [2002] *Middle Eastern Minorities and Diasporas*, Brighton: Sussex Academic Press.
- Mainwaring, Scott [1990] " Presidentialism in Latin America, " *Latin American Research Review*, 25, pp. 157-179.
- [1999] *Rethinking Party Systems in the Third Wave of Democratization: The Case of Brazil*, Stanford: Stanford University Press.
- Mair, Peter [1993] " Myths of Electoral Change and the Survival of Traditional Parties: The 1992 Stein Rokkan Lecture, " *European Journal of Political Research*, 24, pp. 121-133.
- [2001] " The Freezing Hypothesis: An Evaluation, " in Lauri Karvonen and Stein Kuhnle eds., *Party Systems and Voter Alignments Revisited*, London: Routledge.
- McGuire, James W. [1995] " Political Parties and Democracy in Argentina, " in Scott

- Mainwaring and Timothy R. Scully eds., *Building Democratic Institutions: Party Systems in Latin America*, Stanford: Stanford University Press.
- McLaurin, R. D. ed. [1979] *The Political Role of Minority Groups in the Middle East*, New York : Praeger.
- Miller, Arthur H., Gwyn Erb, William M. Reisinger, and Vicki L. Hesli [2000]
“ Emerging Party Systems in Post-Soviet Societies: Fact or Fiction? ” *Journal of Politics*, 62, pp. 455-490.
- Moreno, Alejandro [1999] *Political Cleavages: Issues, Parties and the Consolidation of Democracy*, Boulder: Westview.
- Mozaffar, Shaheen, James R. Scarritt, and Glen Galaich[2003] Electoral Institutions, Ethnopolitical Cleavages, and Party Systems in Africa's Emerging Democracies, ” *American Political Science Review*, 97(3) , pp. 379-390.
- Neuman, W. Laurence [2003] *Social Research Methods: Qualitative and Quantitative Approaches*, fifth ed., Boston: Allyn and Bacon.
- O'Donnell, Guillermo[1994] Delegative Democracy, ” *Journal of Democracy*, 5(1) pp. 55-69.
- [1996] “ Illusions about Consolidation, ” *Journal of Democracy*, 7(2) , pp. 34-51.
- Özbudun, Ergun [1987] “ Institutionalizing Competitive Elections in Developing Societies, ” in Myron Weiner and Ergun Özbudun eds., *Competitive Elections in Developing Countries*, Durham: Duke University Press.
- Park, Chan Wook [2002] “ Elections in Democratizing Korea, ” in John Fuh-sheng Hsieh and David Newman eds., *How Asia Votes*, New York: Chatham House.
- Pempel, T. J. [1990] “ Conclusion: One-Party Dominance and the Creation of Regimes, ” in T. J. Pempel ed., *Uncommon Democracies: The One-Party Dominant Regimes*, Ithaca: Cornell University Press.
- Penas, Ignacio Lago[2004] “ Cleavages and Thresholds: The Political Consequences of Electoral Laws in the Spanish Autonomous Communities, 1980-2000, ” *Electoral Studies*, 23, pp. 23-43.
- Pennings, Paul, Hans Keman, and Jan Kleinnijenhuis [1999] *Doing Research in Political Science: An Introduction to Comparative Methods and Statistics*, London: Sage.
- Posner, Daniel N. [2003] “ The Colonial Origins of Ethnic Cleavages: The Case of Linguistic Divisions in Zambia, ” *Comparative Politics*, 35(2) , pp.127-146.
- Puhle, Hans-Jürge [2002] “ Still the Age of Catch-allism? Volksparteien and Parteienstaat in Crisis and Re-equilibration, ” in Richard Gunther, Jose Ramon-Montero and Juan J. Linz eds., *Political Parties: Old Concepts and New Challenges*, Oxford: Oxford University Press.

- Rae, Douglas W[1971] *The Political Consequences of Electoral Laws*, New Haven: Yale University Press.
- Rae, Douglas W. and Michael Taylor [1970] *The Analysis of Political Cleavages*, New Haven: Yale University Press.
- Randall, Vicky[1999] "Party Systems and Voter Alignments in the New Democracies of the Third World," in Lauri Karvonen and Stein Kuhnle eds., *Party Systems and Voter Alignments Revisited*, London: Routledge.
- Reynal-Querol, Marta [2002] " Ethnicity, Political Systems, and Civil Wars, " *Journal of Conflict Resolution*, 46, pp. 29-54.
- Römmele, Andrea [1999] " Cleavage Structures and Party Systems in East and Central Europe, "In Kay Lawson, Andrea Römmele, and Georgi Karasimeonov eds., *Cleavages, Parties, and Voters: Studies from Bulgaria, the Czech Republic, Hungary, Poland, and Romania*, Westport: Praeger.
- Rose, Richard and Ian McAllister [1990] *The Loyalties of Voters: A Lifetime Learning Model*, London: Sage.
- Sartori, Giovanni [1976] *Parties and Party Systems: A Framework for Analysis*, Cambridge: Cambridge University Press.
- Scully, Timothy R. [1995] " Reconstructing Party Politics in Chile, " in Scott Mainwaring and Timothy R. Scully eds., *Building Democratic Institutions: Party Systems in Latin America*, Stanford: Stanford University Press.
- Schulze, Kirsten E., Martin Stokes, and Colm Campbell eds. [1996] *Nationalism, Minorities and Diasporas: Identities and Rights in the Middle East*, London: Tauris.
- Vatter, Adrian[2003] " Legislative Party Fragmentation in Swiss Cantons: A Function of Cleavage Structures or Electoral Institutions? " *Party Politics*, 9, pp.445-461.
- Van Nieuwenhuijze, C. A. O. ed[1977] *Commoners, Climbers and Notables: A Sampler of Studies on Social Ranking in the Middle East*, Leiden: E. J. Brill.
- Zuckerman, Alan S. [1982] " New Approaches to Political Cleavage: A Theoretical Introduction, " *Comparative Political Studies*, 15(2) , pp. 131-144.